



INDEX

アジア・オセアニア地域フランシスカン 広報担当者会合、シンガポール.....	1
総本部の予定	2
平和のための祈りの呼びかけ	3
総長、聖十字架管区の復活祭訪問	3
総長、 アマゾン聖ベネディクト分管区訪問	4
福音宣教事務局と福音宣教実行委員会の 合同会合	5
ポーランドにおける召命の養	6
Life in the Order	6
兄弟Francesco Pattonが準備したコロッ セオにおける教十字架の道行きの黙想	7
教皇レオ、サン・ピエトロで 受難の主日を祝う.	7

アジア・オセアニア地域フランシ スカン広報担当者会合、 シンガポール

*FCAO、フランシスカンのコミュニケーションに
関する協力と共通指針の整備を推進*

4月7～10日、シンガポール聖アントニオ修道院で、アジア・オセアニア地域フランシスカン諸管区協議会の広報担当者の会合が開かれた。会合の目的は、力を合わせ、経験を分かち合い、相互協力を促進することであった。FCAOの管区・分管区から、対面で12名、オンラインで4名が参加した。

参加者は、火曜日朝の祈りの後、所属する管区・分管区の広報担当者の現状を報告し、限られたリソース、翻訳の必要性、内部調整、デジタルプレゼンスなど、共通の課題を分かち合った。また、共有エディトリアルカレンダーの作成、写真およびその他の資料の共有アーカイブの構築、ソースの検証や内部承認のためのプロトコルの策定、言語間の整合性を確保するためのスタイルガイドの活用、コンテンツや公開スケジュールを調整するための指針の確認など、さまざまな場所ですでに実施されている優れた実践例も紹介された。



午後には、コンサルタントのKaren Goh氏が、ブランドアイデンティティとメッセージの一貫性に関するワークショップを指導した。同氏は、各管区・分管区のコミュニケーション・アイデンティティを明確に定義し、長期的に維持するための基準を提示した。また、メッセージをさまざまなチャンネルや文脈において認知されやすくするために、トーンや表現法、イメージを統一することを提案した。さらに、メッセージやコミュニケーションチャンネルの一貫性を保証するとともに、管区・分管区のコミュニケーション目標に合ったものであり続けるよう、定期的に見直すことを強調した。グループは、Goh氏の指導のもとで、F-CAOとその共同プロジェクトを説明する一連のメッセージ草案を作成した。

4月8日水曜日の会議は、福音宣教的デジタルプレゼンスの判断基準を識別するために行なわれた対話を通して、文書Incipe Iterumを詳検討した。兄弟Byron Chamann (OFM) は、発表のなかで、修道会レベルで承認されたこれらのガイドラインが基準の枠組みとなること、また、各管区・分管区がそれぞれの地域の文化や法規範を考慮し、信徒の専門家も含めたチームで作業をしながら、独自のプロトコルを発展させていくよう呼びかけられていることを強調した。さらに兄弟Byronは、各管区・分管区に対し、デジタル養成を養成プログラムのなかに統合することを検討するよう要請した。

グループは、木曜日に、アジア・オセアニア地域フランシスカン諸管区協議会と総本部広報担当室との協力について議論し、管区・分管区や諸管区協議会の間でニュース、写真、リソースの交流を強化するための具体的措置を提案した。兄弟Byronの指導のもとで行なわれたこの議論では、

組織としてのコミュニケーションの重要性、ソースの慎重な確認や長上たちとの調整の必要性、そして修道会の公式チャンネルへのリンクや参照を強化することの重要性が強調された。

続いて、兄弟Angelito Cortez (OFM) は、アジア・オセアニア地域フランシスカン諸管区協議会に属する各地方組織の広報担当室間のコミュニケーション協力について講演し、各管区・分管区の声が断片化され、情報能力に格差がある場合、フランシスカンのデジタルプレゼンスが弱体化してしまうという点を指摘した。兄弟Angelitoは、単なる協働から、明確なプロジェクトと共通の基準に基づくより深い連携へと移行することを提案し、共通プラットフォームや交流チャンネルの改良も進めながら、ネットワーク活動を強化していくよう勧告した。

4月10日金曜日には、兄弟John Sekar (OFM) が指導するセッションが開かれ、ジャーナリズムやソーシャルメディアにおける人工知能の活用を中心に考察が行なわれた。これらのツールが日々の作業にもたらすチャンスだけでなく、偽情報、批判的思考の喪失、プライバシーや肖像権の保護、そしてテクノロジーが環境に与える影響といった倫理的リスクも明らかにされた。意見交換では、真理と共通善のために責任ある透明性の高い利用を推進していくことが推奨された。

会合は、アジア・オセアニア地域フランシスカン諸管区協議会の広報担当者のネットワークを引き続き強化し、調整を行なったうえでリソースを共有し、地域教会において、「共通の家」の保全において、小さき兄弟会の兄弟性と使命を反映したコミュニケーションを節度と希望をもって支援していくという決意で締めくくられた。

総本部の予定



☑ 総長の兄弟Massimo Fusarelliと総理事の兄弟César Kulkampの南米歴訪が続く。ブラジルで、4月21～23日、聖母の七つの喜び分管区、24～26日、聖母被昇天管区、27～30日、聖アントニウス管区を訪問予定。

☑ 総理事の兄弟Joaquín A. Echeverry H. は、4月11～20日、メキシコのサン・フェリペ・デ・ヘスス管区の兄弟たちと会った。20日と21日には、メキシコシティのフランシスカン学校「Leona Vi-

cario」の教員たちと会った。

☑ 総理事の兄弟Konrad Cholewaは、5月3～5日、チェコ共和国のプラハにおいて、聖ヴァーツラフ管区会議に参加予定。

☑ 5月4～16日、総本部においてテンポ・フォルテが開催される予定。

Government of the Order



平和のための祈りの呼びかけ

総長メッセージ



WWW.OFM.ORG



近頃、戦争や暴力によって、罪のない多くの人たちの苦しみはますますひどくなっています。そうしたいま、私たちは、勇気をもって明確に発せられた教皇レオ14世の声を感謝のうちに受け入れましょう。それは、すべての人の尊厳、対話、そして共通の責任への呼びかけです。平和を求めるのは、政治的行為ではありません。福音に根ざした、根本的、道徳的行為なのです。私たちは、

小さき兄弟として、教皇と一致し、その平和と正義の言葉に耳を傾ける私たちの責務を新たにします。その言葉は、アシジの聖フランシスコのメッセージの核心へと導いてくれます。それは、キリストの福音の告知と、神に由来する平和の告知です。その平和は、この世が与える平和ではありません。いかなる権力も、この平和を奪うこと、偽ることもできません。教会は、そして教会とともに小さき兄弟会は、緊張や権力への誘惑が著しいこの時代において、分断する者の側ではなく、築く者の側に立つことを選びます。小さな者たち、罪のない戦争や暴力の犠牲者たちの側に立つのです。私たちは、本会の共同体やフランシスカン家族に対し、平和のための祈りをさらに強め、苦しむ人たちに寄り添いながら同伴し、それぞれの地域の状況に応じて、連帯と支援のための具体的取り組みを支えていくよう呼びかけます。

兄弟Massimo Fusarelli, OFM

写真：バチカン・メディア

総長、 聖十字架管区の復活祭訪問 ミナスジェライス州、ブラジル



WWW.OFM.ORG

2026年4月1日から7日にかけて、聖週間と復活祭を背景に、総長の兄弟Massimo Fusarelliと総理事の兄弟César Küllkampは、ブラジルのミ



ナスジェライス州にある聖十字架管区を兄弟的訪問した。復活祭という文脈は、この訪問に特に意義深い色調を与えた。サン・ジョアン・デル・レイ、ディヴィノーポリス、ベティムの共同体において、総長は聖週間の典礼を司式し、兄弟の中の一人の兄弟として、小教区や共同体の日常生活の中に入っていた。キリスト者共同体やフランシスカン修道女たちとの祈り、分かち合い、そして出合いのひとつときは、単なる組織的な訪問を超えた臨場感をもって、これらの日々を特徴づけた。

復活の日には、有期誓願者およびその養成担当者との集いが行われ、現在進行中の養成プロセスの安定かつ建設的な評価を行う機会となった。その後、現在管区に在籍している11名の志願者との面会が行われ、この地における小さき兄弟会の未来に向けた活力と希望の具体的な証

しとなった。

管区理事会との会議および全会員との集いにおいて、総長は「傾聴」から生まれたいくつかの省察を分かち合った。ブラジル最大級の州の一つにおける兄弟たちの献身と宣教へのコミットメントに対する感謝とともに、守り、刷新すべきいくつかの忠実さ——真の兄弟的生活、兄弟間の関係とコミュニケーションの質、宣教へのより大胆な開放、和解の道、さらには「兄弟的経済」と管区の将来的な持続可能性など——が提示された。

さらに視野を広げる出会いにも事欠かなかった。聖クララ修道女会への訪問、ペロオリゾン

テの聖アントニウス学院の教育者や若き学生たちとの分かち合い、そしていくつかの社会福祉事業の視察は、教会だけでなく、人生の「周辺部（ペリフェリア）」にまで及ぶ兄弟的臨在の印であった。

訪問の終わりに、兄弟Massimoはこの訪問から深い感謝を持ち帰った。それは、すべての出会いに風味と深みを与えた復活祭という背景、いたるところで受けた温かく兄弟的な歓迎、そして、誠実さと希望に満ちた眼差しで管区の未来とブラジルの中心部におけるその使命を見据えた、兄弟たちとの率直で建設的な対話に対してであった。

総長、 アマゾンの聖ベネディクト分管区訪問 2026年4月7～10日



WWW.OFM.ORG

2026年4月7～10日にかけて、総長の兄弟Massimo Fusarelliと総理事の兄弟César Küllkampは、総長代理の兄弟Wanderley G. Figueiredoおよび分管区長の兄弟Edilson Rocha da Silvaを伴い、アマゾンの聖ベネディクト分管区を訪問した。



訪問は4月7日、マナウスへの到着と、聖ボナベントゥラ共同体での歓迎から始まった。4月8日、総長はマナウス大司教のLeonardo Steiner枢機卿(OFM)およびサMgr. Samuel Ferreira補佐司教(OFM)と会談した。午後、兄弟マッシモと兄弟セザールはサンタレンへと移動し、分管区本部の所在地である聖フランシスコ共同体で歓迎を受け、サンタレン大司教と面会した。

4月8日の夜、聖体拝領小教区において、総長は兄弟、修道者、そして在世フランシスコ会

(OFS)の会員「フランシスカン家族」とともにミサを司式した。この典礼は、聖フランシスコ（死後800周年）の記念すべき年における、真の家族の祝いとなった。説教の中で総長は、「私たちが闇の場所と考え、逃げ出そうとする場所こそ、しばしば新しい命の種が見つかる場所なのです」と語り、出席者たちに「復活した主」の臨在によって自らを変容させていくよう招いた。

4月9日は、一日を通して全会員との集いに充てられた。絶望のうちに信じて「多くの民の父」となったアブラハムの信仰の旅路に照らし、総長は総理事会の介入における本質的要素を想起し、分管区の強みと重要課題を強調した。そして、総本部代表と委員会の同伴のもと、将来の歩むべき進路を描き出した。メッセージの核心は、神との関係と兄弟愛に照らされた「新しい目」で現実を見つめること、そして「死のうめき」を「産みの苦しみ」へと変え、教会、修道会、そして全世界にとって極めて重要な地域における分管区の潜在能力を認識することへの招きであった。集会では質の高い傾聴と議論が行われ、歩みを続けるための強固な基盤が築かれた。

4月9日の夜、聖アンナ共同体において、総長は若者たちやGIFRA（フランシスカン青年会）、フランシスカン演劇グループ「Lodi and Kabikaxi」、そしてフランシスカン小教区ネットワークのリーダーたちとともにミサを司式し、この記念すべき年に聖フランシスコの「帰天」を記念した。説教の中で彼は、「私たちが信仰を分か

ち合うたびに、復活した主は自らを現してください」と強調し、共同体と「戦争、分断、不確実性に特徴づけられた」世界を、復活した主の平和に委ねた。活気に満ちたミサの後には、対話と兄弟的な親睦のひとつきが持たれた。

最終日の4月10日、共同体との朝の祈りとミサの後、総長は分管区理事会と面談し、今後の歩みの方向性を再確認し、共に未来を見据えた。午後には、6名の志願者、3名の有期誓願者、および養成担当者との集いが行われ、兄弟Massimoはフランシスカンの召命の本質的要素と、養成の各段階における固有のアイデンティティについて語っ

た。特に、ムンドゥルク族という先住民族から来る召命を、いかにしてより良く知り、迎え入れ、同伴する準備を整えるかという、分管区と修道会にとっての挑戦について省察がなされた。

今回の訪問は、聖フランシスコが教えたように、十字架と苦難からでも、命と希望と喜びを生み出すことのできる「復活の新しさ」が生まれ得るという確信のうちに、聖ベネディクト分管区の刷新の歩みに同伴したいという総理事会の願いを裏付けるものとなった。

Animation of the Order



福音宣教事務局と福音宣教実行委員会の合同会合 小さき兄弟会の福音宣教の使命を強化するため

2026年3月22～26日、マルタ



WWW.OFM.ORG

2026年3月22～26日にかけて、マルタにおいて、福音宣教国際評議会と福音宣教実行委員会の合同会合が開催された。参加者たちは、これらの数日間、祈りと対話と識別の雰囲気の中で、本会のさまざまな諸管区協議会や管区・分管区等における福音宣教の経験や状況について分かち合った。

福音宣教実行委員会の代表として参加したのは、福音宣教総事務局長の兄弟Francisco Gómez Vargasと福音宣教総事務局アニメーターの兄弟Dennis Tayo、ならびに兄弟Johannes Freyer、兄弟José Rodríguez、兄弟Clement Boumekporである。福音宣教国際評議会の代表として参加したのは諸管区協議会の福音宣教総局長たちで、兄弟Edgar Abad、兄弟Peter Boegel、兄弟Arcangelo Borek、兄弟Matteo Brena、兄弟Sandesh Manuel、兄弟Leopold Mičić、兄弟Elcardo Murehereza、兄弟Marcel Tshikez、兄弟Mauricio Meza Sánchez、兄弟Eduardo Augusto Schiehl、兄弟Nicholas Shinである。参加者たちは、それぞれの宣教の現実に固有の豊かさと課題について話をした。総理事の兄弟Jimmy Zammitも参加し、総長からのあいさつを伝えた。また、Edgar Abad Marcos Mendozaが通訳を務めた。

この会合の中心的テーマの一つは、本会の『福音宣教綱領』をさらに深めることであった。これは、2022年に始まり、2025年12月8日の『全世界

に行きなさい (Ite in Mundum)』の発表で頂点に達した歩みを継続するものである。『福音宣教綱領』の実施に向けた具体的方法論の模索や、さまざまな文化的、司牧的現実に応じた個別のガイドライン（「個別綱領」）の策定において進展があった。



さらに、2027年の総集会のための準備として、総則の改訂のための貢献も含め、本会の福音宣教活動に関する提案がなされた。そうした意味で、現代的課題に照らしていくつかの用語を刷新するため、福音宣教を扱う総則第5章の研究とくに時間が割かれた。会合では、福音宣教総事務局の個別規則についても検討が行われた。会合は、フランシスカンのカリスマに忠実を保ちつつ、創造的で各自の状況に応じた福音宣教を推進するという新たな決意のうちに終了した。



News from the Entities

ポーランドにおける召命の養成

2026年4月7～8日、ホジュフ



WWW.OFM.ORG



2026年4月7日から8日にかけて、ホジュフのフランシスコ会修道院内にあるフランシスカン青年・召命センター「三人の同伴者」において、ポーランド全土から小さき兄弟会の召命担当責任者たちが集まり、会議が開催された。

このイベントには、ポーランドの5つの管区（天使の聖母管区、無原罪の聖母管区、聖母被昇天管区、聖ヘドウィグ管区、アシジの聖フランシスコ管区）から、召命パストラル（召命活動）を担当する兄弟たちが参加した。また、本会の総理事である兄弟Konrad Cholewa (OFM) もこの会議に出席した。

会議の主な目的は、本会の養成・学問総事務局が作成した召命養成に関する書簡について省察すること、ならびに経験を交換し、今後の活動に向けた方向性を共同で策定することであった。参加者たちは、ポーランドにおける青少年および召命パストラルに関するプログラムの準備や情報収集にも取り組んだ。

グループワークを通じて、参加者たちは若者たちに手を差し伸べるための新しい方法というテーマに取り組み、若い世代が生きる環境における「真正な生活の証し」と「臨在」の重要性を強調した。また、この会議は様々なセンターや共同体の間の協力を促進した。さらに、各管区の召命担当部署が組織する取り組みの共通カレンダーも作成され、特に「聖フランシスコの年」の祝いに関連するイベントに重点が置かれた。

会議は、国全体の召命パストラルの発展に対する兄弟的な協力と関心の雰囲気の中で行われた。本会の北スラブ諸管区協議会（SLAN）の養成・学問総局長である兄弟Sergiusz Bałdygaによって組織されたこの集いにおいて、今回の取り組みが召命への配慮を活性化させ、自らの人生の歩みを模索している人々を支える一助となることへの希望が表明された。

LIFE in the Order

帰天された
兄弟たち

- † 4月12日：兄弟José Maria Pereira de Faria Moreira、モロッコの聖初期殉教者管区（ポルトガル）
- † 4月9日：兄弟José Simões (José) Alfaiate、モロッコの聖初期殉教者管区（ポルトガル）
- † 4月5日：兄弟Jean-Claude (Yves-Marie) Chupin、福者ドゥンス・スコトゥス管区

（フランス）

- † 4月3日：兄弟Sebastian (Ryszard Bernard) Baryluk、アシジの聖フランシスコ管区（ポーランド）
- † 3月29日：兄弟Augustine (Roland Anthony) Pinto、使徒聖トマス管区（インド）
- † 3月28日：兄弟Ante Ivanković (sr)、聖母被昇天管区（ボスニア・ヘルツェゴビナ）
- † 3月27日：兄弟Pablo González Ruiz、聖ペトロと聖パウロ管区（メキシコ）
- † 3月4日：兄弟Ludio Alejandro Quinteros Rivera、十二使徒管区（ペルー）

総本部署事務局からの情報

Holy See



兄弟Francesco Pattonが準備した コロッセオにおける十字架の道行きの黙想

2026年4月3日、聖金曜日



WWW.OFM.ORG

4月3日の夕方に教皇レオ14世が司式したコロッセオにおける聖金曜日の伝統的十字架の道行きにおいて、前聖地特別分管区長（2016～2025年）の兄弟Francesco Patton (OFM) が準備した黙想が用いられた。兄弟Pattonは、バチカン・メディアや聖地特別分管区による複数のインタビューで、国務省を通じて依頼があったと語った。兄弟は、アシジの聖フランシスコ帰天800周年に合わせてこの役目を任されたとも説明している。



文章の作成は、みことばとフランシスカンの伝統への傾聴の成果である。その基礎となったのは、福音書——とくにヨハネによる福音書に重点が置かれている——と、各留で霊的解説をするために選ばれた聖フランシスコの書き物のいくつかの箇所である。祈りの形式をとったこれらの黙想は、信者たちがイエスのみ跡に従って歩む助けとなるだけでなく、信仰から遠ざかっている人たちにも問いと希望の場を開くために書かれたものである。

しかし、そのまなざしは、抽象的次元に留まるものではなかった。これらの省察は、今日の現実や、苦しみが刻まれる具体的人々——子どものために泣く母親たち、暴力に傷ついた女性たち、戦争の犠牲者たち、そしてしばしば声を上げることもできないまま不正義の重荷を背負う人々——から触発されたものである。十字架の道行きは、そうした意味で回心の招き、すべての人の尊厳の認知、そして神の名のもとに行なわれるあらゆる暴力の拒絶ともなった。

さらに、兄弟Francesco Pattonは、毎週金曜日に聖地特別分管区の兄弟たちが「苦難の道」を先導しながら行なわれるエルサレムの十字架の道行きの体験についても触れた。それは、日常生活のただなかで、群衆とそのもつ矛盾の間で行なわれる祈りである。ここでは、しばしば理解できないこの世界のなかで、キリストに従うことを学ぶことができる。これらの黙想がコロッセオに集まった教会にも伝えたかったのは、福音に根ざしたこの具体性なのである。

教皇レオ14世、サン・ピエトロで受難の主日を祝う 「これが私たちの神です: 平和の王、イエス」



WWW.OFM.ORG



教会は、3月29日日曜日午前10時、サン・ピエトロ広場において、主のエルサレム入城の記念とともに、聖週間を開始した。オベリスクの前で、

イエスのエルサレム入城についての福音書の箇所が朗読され、棕櫚の枝の祝福が行なわれた。その後、行列は信者たちを祭壇の方へと導き、ミサが執り行なわれた。

受難の主日の典礼の教皇レオ14世の説教は、暴力と紛争に満ちたこの時代に、「平和の王」としてのキリストの側面を示した。教皇は、周りで戦争の準備がなされるなかで、「柔和を堅く保ち続ける」イエスに目を注ぐよう招いた。また、他の人たちが「剣と棒を手取る」一方で、「人類に優しく手を伸ばすかた」イエスに、そして「闇が地を再び覆おうとする」ときに、「世の光」であるイエスに目を向けるよう呼びかけた。

教皇は、再び聖書の引用に戻り、メシアである王が「馬ではなくろばに乗って」エルサレムに入り、「戦いの弓」を絶って「諸国の民」に届く力をもった平和の告知の預言が成就したことを想起した。そしてキリストは、弟子の一人が剣を抜こうとしたとき、「剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる」と言い、明確な言葉でその弟子を止めた。続いて説教は、神の柔和さの啓示として受難を観想した。イエスは、「私たちの苦しみを負い、私たちの罪のために刺し貫かれたとき」、「口を開かなかった」。また、自分を救う代わりに、「十字架に釘づけにされ」た。「それは、人類の歴史のあらゆる時間と場所に立てられたすべての十字架を引き受けるため」である。ここから、典礼全体を貫く「平和の君であるキリストは、十字架上で再びこう叫びます。神は愛です。憐れみをもってください。武器を捨ててください。あなたがたが兄弟であることを思い出してください」という呼びかけが生まれる。教皇は、最後にこの叫びを聖母マリアの執り成しに委ねつつ、神のしもべトニオ・ベッロ司教の言葉を引用

して、「どんなことがあろうとも、死が私たちに打ち勝つことがない」という確信、「すべての暴力と苦しみ犠牲者の涙が、春の日差しに溶ける霜のように乾く」という確信について述べた。

教皇は、ミサが終わった後で、お告げの祈りを主導した。教皇は、聖週間の初めに、「悲惨な紛争」に苦しむ「中東のキリスト信者」に対する教会の寄り添いを表明し、「戦争によって傷ついた人々」を支え、「和解と平和への具体的道」を開くよう、「平和の君」に願い求めることを呼びかけた。さらに、戦争の犠牲となった船員や海で命を落とした移民たちに思いを馳せ、「大地と空と海は、いのちと平和のために造られた」のだとあらためて訴えた。

教皇レオの説教

お告げの祈りでのことば

写真を見る

1226 — 2026
Franciscus
Eight Hundredth Anniversary of the Death of St. Francis



**平和をもたらす人は幸いである。
その人たちは
神の子と呼ばれる** (マタイ5,9)

この代で耐え忍ぶすべてのことにおいて、私たちの主イエス・キリストへの愛の故に、精神においても肉体においても平和を保つ人々こそ、真に平和をもたらす人々です (訓戒の言葉 XV)

Subscribe

Write us

Web

Follow us



Newsletter



comgen@ofm.org



www.ofm.org



@ofmorg



@fratrumminorum



@ofm.org



flickr

Curia Generale dei Frati Minori
Via di S. Maria Mediatrix, 25
Roma, Italia

Director: Br. Byron A. Chamann Anléu OFM
Translators: Br. John Luke OFM, Br. Rick Martigneti OFM, Br. Arthur Andersen OFM

OFM
Ordo Fratrum Minorum
© 2026 All rights reserved